

和泉市市民活動推進支援事業支援対象団体エントリーシート

令和3年11月25日

和泉市長 あて

団体名 モア21
代表者名 芦田三雄
所在地
電話番号

和泉市市民活動推進支援金の交付を受けたいので、和泉市市民活動推進支援金交付要綱第7条の規定により、関係書類を添えて、支援対象団体の募集にエントリーします。

事業名	米作りプロジェクト
申請コース	(1) 公益活動支援コース <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジコース <input type="checkbox"/> ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
事業費総額	_____ 77,000円 (うち、対象経費 _____ 77,000円)
支援金 交付申請額	_____ 49,000円

1. 支援対象団体と決定した場合、和泉市の後援名義を使用しますか。
(はい ・ いいえ)

2. 添付資料

- (1) 団体概要調書（様式第2号）
- (2) 規約、会則又は定款及び役員名簿の写し
- (3) 事業計画書（様式第3号）
- (4) 収支予算書（様式第4号）
- (5) その他市長が必要と認める書類

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

団体概要調書

フリガナ	モア ニジュウイチ		
団体名	モア21		
団体の目的	自己研鑽、地域の魅力発見、ボランティア活動を通じて、男女共同参画社会作りを推進する。		
市内事務所の所在地			
	電話		FAX
フリガナ	アシダ ミツオ		
代表者氏名	芦田 三雄		
連絡先 ※この申請について問い合わせをしたときに対応できる方	(連絡責任者氏名)※		電話 ()
	フリガナ		
	同上		FAX ()
(住所) 上記事務所以外に資料送付を希望する場合はご記入ください。			
設立年月	2014年 03 月	主な活動地域	和泉市
会報等の発行	有 (回発行) ・ <input type="checkbox"/> 無	会員数	13人
メールアドレス			
ホームページ	http://		
主な事業内容	わくわく科学教室、白みそ作りの開催、福祉農園の運営、米作りプロジェクトの開催など、男女参画企画や広く農作物の栽培から物作りの楽しさを体験する。		
主な活動の実績	毎年わくわく科学教室、白みそ作りの開催はオアシス助成金と活用して、福祉農園はかがやき助成金を活用、米作りプロジェクトはちよいず事業として実施している。		
国・府・市及び各種団体等からの他の補助金及び委託実績 (過去3年間の実績を記載)	年度	名称	金額(円)
	2019	オアシス助成金	68,142
		ちよいず	30,000
	2020	オアシス助成金	58,646
	ちよいず	30,000	

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

事業計画書

1 事業名	米作りプロジェクト
2 申請コース	(1) 公益活動支援コース <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジコース □ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
3 事業の必要性（※別紙添付可）	
①事業を実施する前提となった問題点、課題、社会背景等 弥生時代に稲作が盛んであった和泉市の子ども達が、お米はスーパーで買うものと思っている現在、お米を作る為に、気候によつての育成方法や対応策など農家の苦勞や工夫を知るすべもない。 そこで私達モア21は、お米が出来る全ての作業を体験してもらう事で、土地の恵み、農家への感謝の気持ちを育くみ、更に副産物の藁を利用して生活用品を作る事で、循環型社会を知ってもらう。	
②事業を実施することにより達成しようとする目標、期待される効果 田んぼの代掻き、田植え、稲の成長、雑草の除去、刈取り、脱穀、粃摺り、しめ縄作りなどのお米が出来る全行程を昔の工法、用具で行う事で、ご飯をいただくことがどれだけの勞力、気候との関係、用具の有難さなど、農家さんの苦勞を体感し、その結果、美味しいごはんを頂ける喜びを感じてもらふ。また、藁から色々な物が作れる事も同時に体験できる。	
4 事業内容（※別紙添付可）	
①問題点、課題を解決するためにどの様な方法を用いてどの様な事業を実施しますか。 お米が出来る全行程を全て昔の用具、工法で行ふこと。 収穫祭には、お餅つき、しめ縄作りなど副産物の利用を体験する。	
②実施期間（日時）	6月初旬～11月初め頃まで。
③実施場所	三林町1383-24 田んぼ
④主な対象者	和泉市民、近郊の方々
⑤参加予定者数	35家族 延べ約450人
⑥告知方法	広報、チラシ、SNS

5 事業スケジュール	
時期（月）	内容
6月初め	代掻き、
6月中旬	田植え
7月	雑草取り
8月	雑草取り
9月	稲刈り
10月初旬	脱穀
10月中旬	脱穀
11月初め	収穫祭、藁細工
6 審査項目からみた事業の自己PR ※要綱別表第2審査基準参照 (実施事業について、どのような点が優れているかなどを審査項目ごとに記入してください。)	
① 公益性	お米を作る為の、気候によつての育成方法や対応策など、農家の苦勞や工夫について、現代の子どもたちは知る機会がなかなかない。そういった現状に対して、本事業では、お米が出来る全行程を経験することができ、お米の出来るまでに気候や害虫の事、その他の作物の出来る様子などを体験することができ、農家さんのご苦勞を感じ取って頂ける。
② 継続性	既に5年以上継続しております。和泉市の広い範囲から参加していただいております。新規で参加される人も多く、年々参加者は増え、2020年で35組延参加者445人の参加を戴いております。ちよいず制度での届出も、希望額の約2倍の金額を頂けておりました。補助金以外の財源として、参加費を頂くが、実収穫でお米がほぼ同額位の量があるため、参加者からは毎回大満足を戴いております。
③ 実行性	三林町会館、春日神社近隣の方の協力により、駐車場、休憩場所等が確保されている。 毎回35組以上の申込があり参加費を頂き、事業費の半分程度を占めている。 田んぼ管理者の理解の元、地域の多くの方々の協力を得て、事業を実施している。 更に機械（脱穀、粃擦り、精米）等も借用出来る体制にある。
④ 協働性	三林町会、近隣農家の方々の理解と協力を頂いている。 家族参加であるので、子どもだけでなく、大人も一緒になって作業をしている。
⑤ 公開性	広報掲載により広く市民に周知する。 また、いずみ市民大学生、福祉農園関係者、障がい者団体、地元地域の方々にSNSやチラシ等で周知する。
⑥ 発展性 (先駆性・展開性) (集客性)	米作りだけでなく、農作物を耕し、収穫が出来る喜びが大きいので、今後、里山の農、林、食を学べる塾を開催するまでにしたい。

この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

収支予算書

事業の名称： 米作りプロジェクト

1. 【収 入】

（単位：円）

項 目	金 額	積算根拠
支援金	49,000	和泉市市民活動推進支援金
事業収入	28,000	参加費800円/家族×35家族
自主財源		
合 計	77,000	

2. 【支 出】

（単位：円）

費 目	金 額	積算根拠（数量、単価等）
報償費	35,000	講師謝礼等
消耗品費	15,000	消毒用品、収穫祭用食材他
印刷製本費	1,000	作業手順工程等印刷用紙及びコピー代
使用料	20,000	農機械5,000×4回使用代
役務費	6,000	農作業保険代4回分
備品費(対象経費)		
備品費(対象外経費)		
合 計	77,000	
対象経費	77,000	

※費目は、別表第3（第10条関係）に記載されているとおりに記載してください。
 ※備品費（対象経費）には備品以外の対象経費の合計を3で除した額もしくは1品あたり上限5万円で算定した備品費のいずれか低い額を記載してください。

備考 実績報告書の提出時に収支決算書とともに領収書等を添付する必要があります。

この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。